

県内の患者数

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	↓ 5	10	百日咳	→ 0	0
RSウイルス感染症	→ 0	0	ヘルパンギーナ	↗ 209	154
咽頭結膜熱	↗ 28	22	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	↓ 7	12
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↓ 84	102	急性出血性結膜炎	→ 0	0
感染性胃腸炎	↗ 317	305	流行性角結膜炎(はやり目)	↓ 12	18
水痘	↓ 39	50	細菌性髄膜炎	↗ 2	0
手足口病	↗ 99	73	無菌性髄膜炎	→ 0	0
伝染性紅斑(りんご病)	→ 1	1	マイコプラズマ肺炎	↗ 3	2
突発性発しん	↗ 53	47	クラミジア肺炎	→ 0	0
			感染性胃腸炎(ロウウイルス)	↓ 0	1

報告が多い感染症

- 感染性胃腸炎
- ヘルパンギーナ
- 手足口病

大きな流行が発生又は継続しつつある地域

感染性胃腸炎 : 菊池
ヘルパンギーナ : 菊池、宇城
手足口病 : 有明

◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフルエ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎(ロウウイルス)
熊本市保健所			5	30	50	8	27	1	19		50	2		11	2		2		
山鹿保健所			4	2	18	1	3		5		6		*	*					
菊池保健所			7	22	80	2	8		7		79	3							
阿蘇保健所				2	2								*	*					
御船保健所					4	1	2						*	*					
八代保健所				2	19	3	14		5		11								
水俣保健所					3	7	2		2		2	1	*	*					
人吉保健所	4			4	25	4	7		5		10		*	*					
有明保健所			1	5	71	5	28		6		5	1		1					
宇城保健所	1		1	7	37	2	2		1		25		*	*					
天草保健所			10	10	8	6	6		3		21						1		
計	5		28	84	317	39	99	1	53	0	209	7	0	12	2	0	3	0	0

◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点	合計	0~5カ月	6~11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80歳以上	
インフルエンザ	5								1	2			2									
小児科定点年齢	合計	0~5カ月	6~11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20歳以上							
RSウイルス感染症	0																					
咽頭結膜熱	28			8	7	6	2	1				1	2	1								
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	84		1	3	4	5	12	8	19	13	8	4	4		3							
感染性胃腸炎	317	7	28	46	32	22	33	18	23	18	11	8	37	15	19							
水痘	39	2	2	9	9	7	8	1			1											
手足口病	99	1	5	19	18	20	15	8	9	2	1	1										
伝染性紅斑	1		1																			
突発性発しん	53	2	25	25	1																	
百日咳	0																					
ヘルパンギーナ	209	1	26	55	46	23	29	16	7	3	1	1	1									
流行性耳下腺炎	7					2		1		1	1	1	1									
眼科定点年齢区分	合計	0~5カ月	6~11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70歳以上		
急性出血性結膜炎	0																					
流行性角結膜炎	12												1		3	1		1	2	4		
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1~4	5~9	10~14	15~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70歳以上					
細菌性髄膜炎	2															2						
無菌性髄膜炎	0																					
マイコプラズマ肺炎	3			1												1	1					
クラミジア肺炎	0																					
感染性胃腸炎(ロウウイルス)	0																					

腸管出血性大腸菌感染症
(O157などに注意しましょう)

先週、今週と続けて腸管出血性大腸菌感染症の報告がありました。
腸管出血性大腸菌感染症は例年、夏季に多く発生し、発症者の6~7%に溶血性尿毒症候群(HUS)や脳症などの重篤な合併症が起こります。
特に子供さんや高齢者の方は感染すると重症化しやすいと言われております。
腸管出血性大腸菌の予防のポイントは食品の衛生的な取扱いです。予防のポイントを確実に、腸管出血性大腸菌の感染を予防し、この夏を楽しく元気に過ごしましょう。



感染経路 腸管出血性大腸菌で汚染された食物などを摂取することによっておこる「食中毒」が主体です。また、ヒトからヒトへの2次感染もあります。

症状 多くの場合、3~5日の潜伏期をおいて、激しい腹痛をとまらぬ頻回の水様便の後に、血便が見られます。発熱は軽度で、多くは37℃台です。症状は、無症状の方から重症の方まで様々です。発症者の6~7%に溶血性尿毒症候群(HUS)や脳症などの重篤な合併症が起こります。

予防法

~食中毒予防のために~

- ①調理の時には、こまめに手を洗いましょう。特に、生肉を扱った手はすぐに石鹸で洗いましょう。
- ②お肉は生で食べないようにしてください。必ずよく加熱してから食べましょう。
- ③お肉を焼くときの取り箸は食べるお箸とは別にして、口に入れないようにしましょう。
- ④生の肉を扱った調理器具は、洗って熱湯をかけたのち、別の調理に使うことが大切です。

~ヒトからヒトへの感染予防のために~

- ①トイレの後や食事の前には石鹸と流水で十分に手を洗いましょう
- ②患者さんのお世話をする方は、使い捨て手袋を使うなどして下痢便に直接触れないようにしてください。手袋をはずした後も十分に手を洗いましょう。
- ③下痢症状のあるときはプールの使用は控えましょう。

